

# HOYA株式会社

2023年3月期 第4四半期 決算説明資料

2023年5月8日

# 将来予測に関する記述

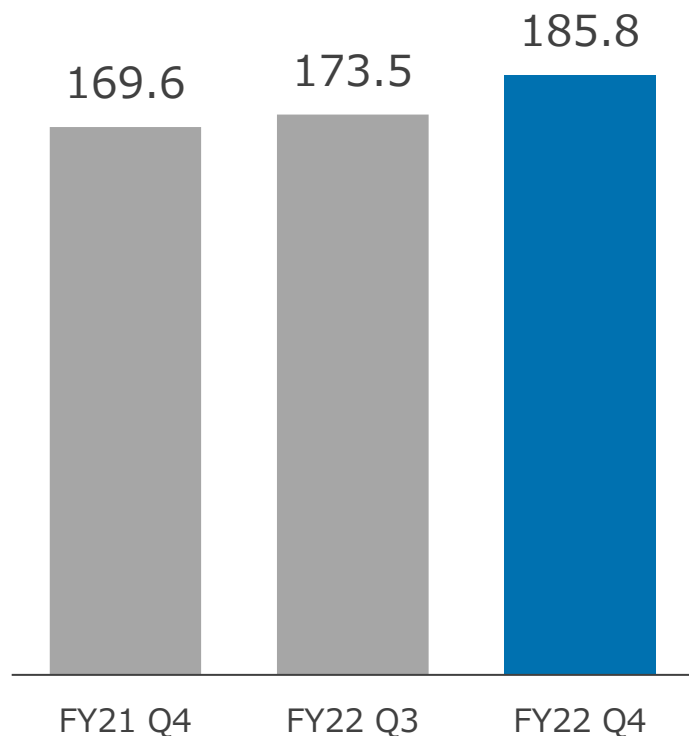
当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

# 1. FY22 Q4の業績

# 連結業績概況

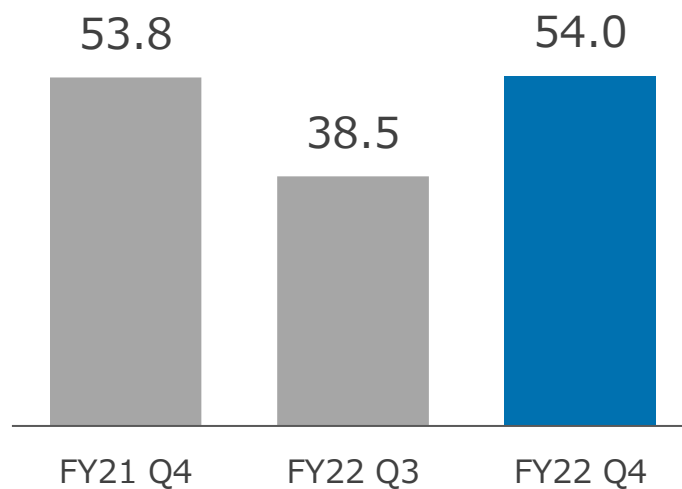
- ブランクスの在庫調整の影響があったものの、ライフケア事業の好調により、増収増益。売上収益は過去最高。
- 情報・通信事業でのコストコントロールやライフケア事業の収益性改善により、通常の営業活動からの利益は増加となった。

売上収益 (十億円)



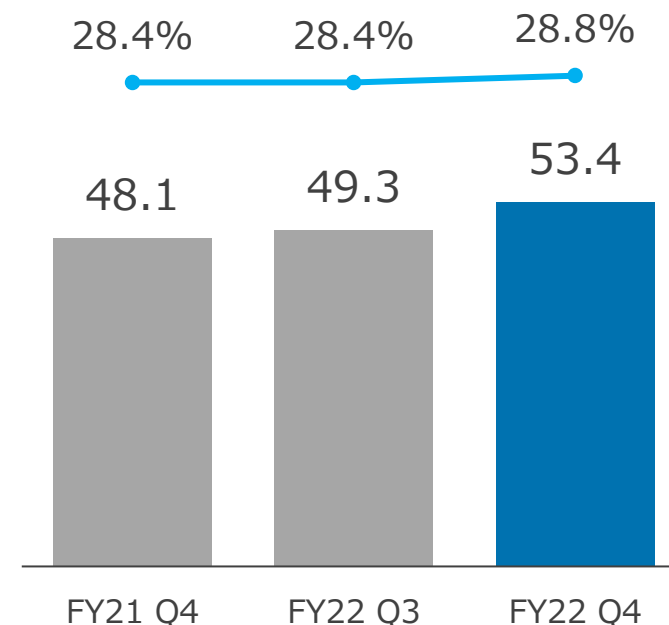
YoY +10% (CC\* +3%)

税前利益 (十億円)



YoY +0% (CC -4%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率

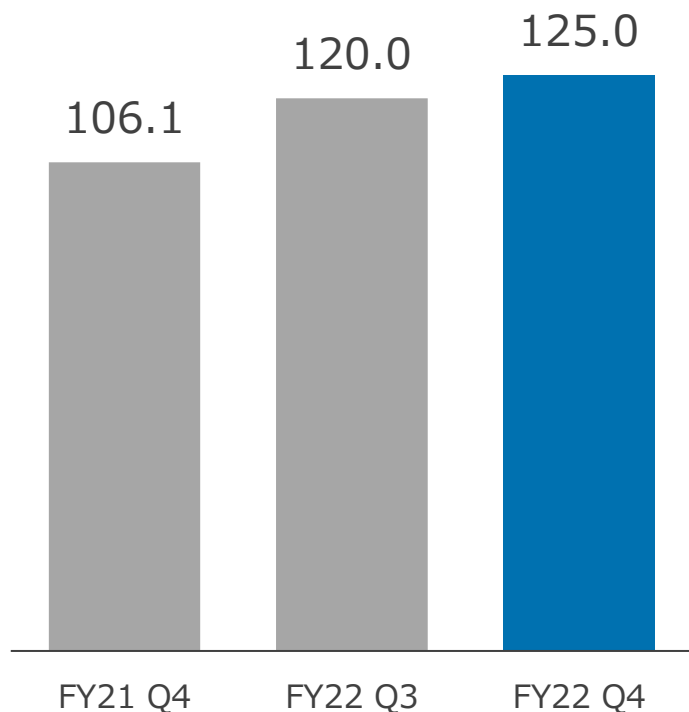


YoY +11% (CC +5%)

# ライフケア事業概況

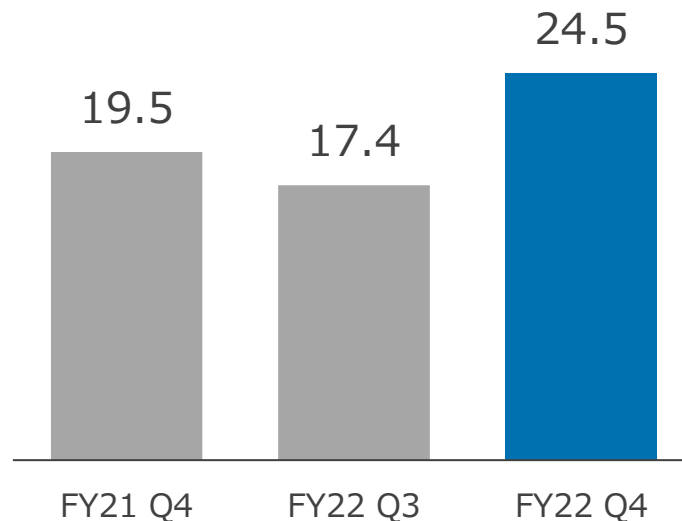
- 主力事業であるメガネレンズが大きく成長したこと等により、全体で2桁の売上成長を達成
- 利益率は地域/製品ミックスの影響により、目標とする20%を超えた

売上収益 (十億円)



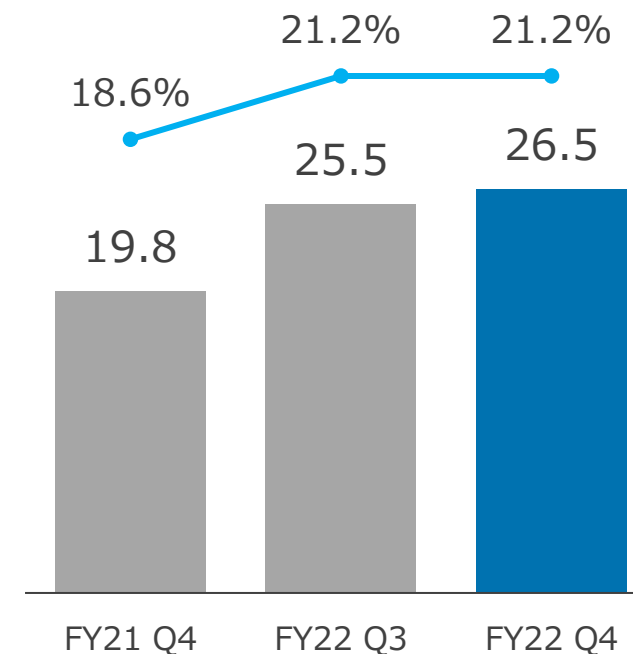
YoY +18% (CC +11%)

税前利益 (十億円)



YoY +25% (CC +19%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY +34% (CC +27%)

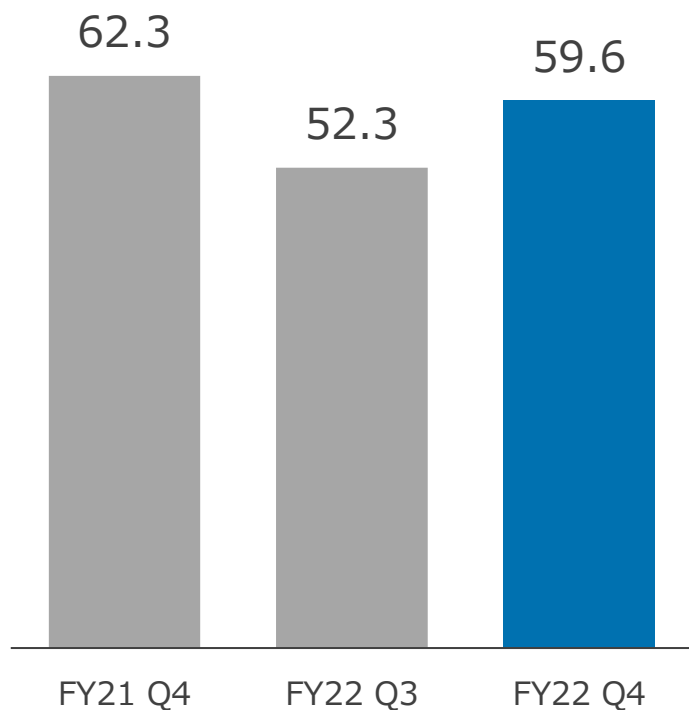
# ライフケア事業 製品別概況

製品	YoY	YoY (CC)	FY22 Q4の状況	今後の方針と展望
メガネレンズ	+22%	+13%	体制強化の米国事業が好転 中国売上がコロナから反動増	より盤石な製品ポートフォリオの構築 チェーン店の顧客獲得強化
コンタクトレンズ	+10%	+10%	客足がコロナ以前以上の水準に PB品や定期便が好調をけん引	PB品の拡販 定期便の強化
内視鏡	+9%	+0%	欧州の販売が堅調だったものの、米国 は低調で、全体ではフラット	ハイエンドプロセッサ等、新製品を ローンチ
眼内レンズ	+23%	+16%	反動増があった中国を含め、全地域 で大幅増収	3焦点など高付加価値製品へ注力 継続的な市場開拓
人工骨ほか	+21%	+15%	製薬用のクロマトグラフィー担体や人 工骨が成長をけん引	引き続き安定的な成長を見込む クロマトグラフィー担体の能力増強

# 情報・通信事業概況

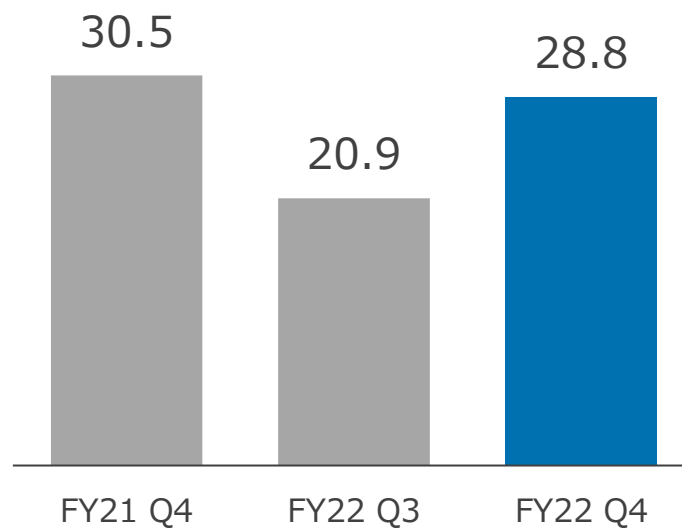
- 顧客における在庫調整によりブランクスが減収となったものの、HDD基板の需要が回復、全体では小幅減収にとどまった
- 機動的なコストコントロールにより、利益率に対する影響も最小化することができた

売上収益 (十億円)



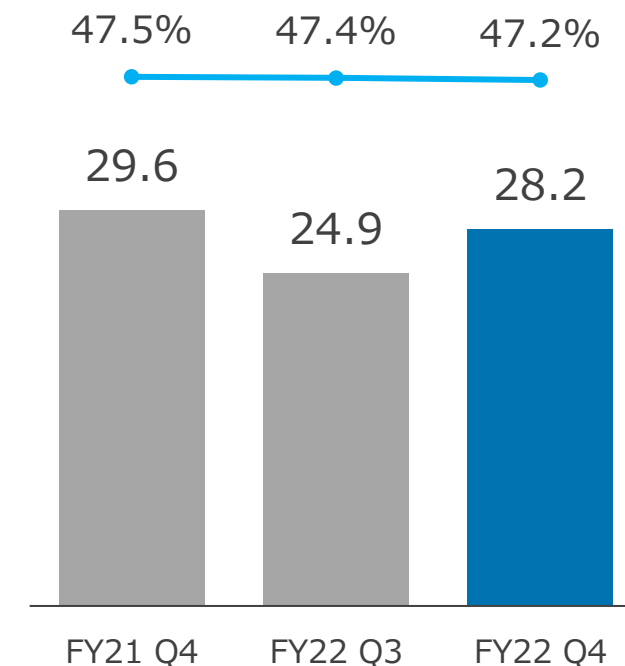
YoY -4% (CC -10%)

税前利益 (十億円)



YoY -6% (CC -11%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY -5% (CC -10%)

# 情報・通信事業 製品別概況

製品	YoY	YoY (CC)	FY22 Q4の状況	今後の方針と展望
LSI	-3%	-6%	顧客での在庫調整により減収 次世代検査装置を発注	緩やかな需要回復を見込む 中長期の成長を支えるEUVへの継続 的な投資
FPD	+9%	+8%	中国顧客の需要が堅調	中国市場への継続的な注力 中国工場建設を着実に進行
HDD基板	-10%	-20%	在庫調整があったQ3から大幅な反動 増	NL向け3.5”の状況を引き続き注視
映像	-3%	-7%	カメラ向けレンズが堅調も、監視カメラ が低調	光学技術を活かした新規事業分野の 開拓



# 貸借対照表/キャッシュフロー関連



## 株主還元

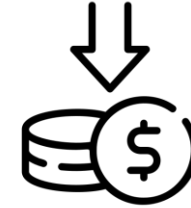
- 400億円の自社株買いを完了
- 取得した株式は消却予定
- FY22年間: 1,540億円取得



## 設備投資\*

- Q4実績: 73億円 (YoY +4億円)
- FY22年間: 335億円
- FY23は390億円前後を見込む

\*CFベース。有形固定資産の取得



## 減価償却

- Q4実績: 128億円 (YoY +13億円)
- FY22年間: 496億円
- FY23はCCベースで横ばいの見込み

## 2. FY22の振り返り

# 注力する3つの事業分野

「見ること」「健康」「情報社会」の3つの分野において、イノベーションを起こすことで社会課題を解決し、より良い未来を目指していく。

ビジョン: Innovating For a Better Tomorrow

## 健康をサポート

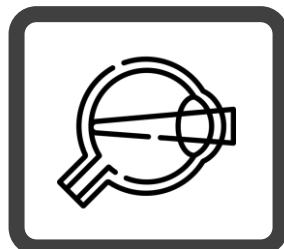
- 内視鏡
- 人工骨
- 低侵襲手術器具
- 製薬用クロマトグラフィー担体



## 社会課題の解決

## 「見る」をサポート

- 小児用近視抑制メガネ
- メガネ/コンタクトレンズ
- 累進レンズ
- 眼内レンズ



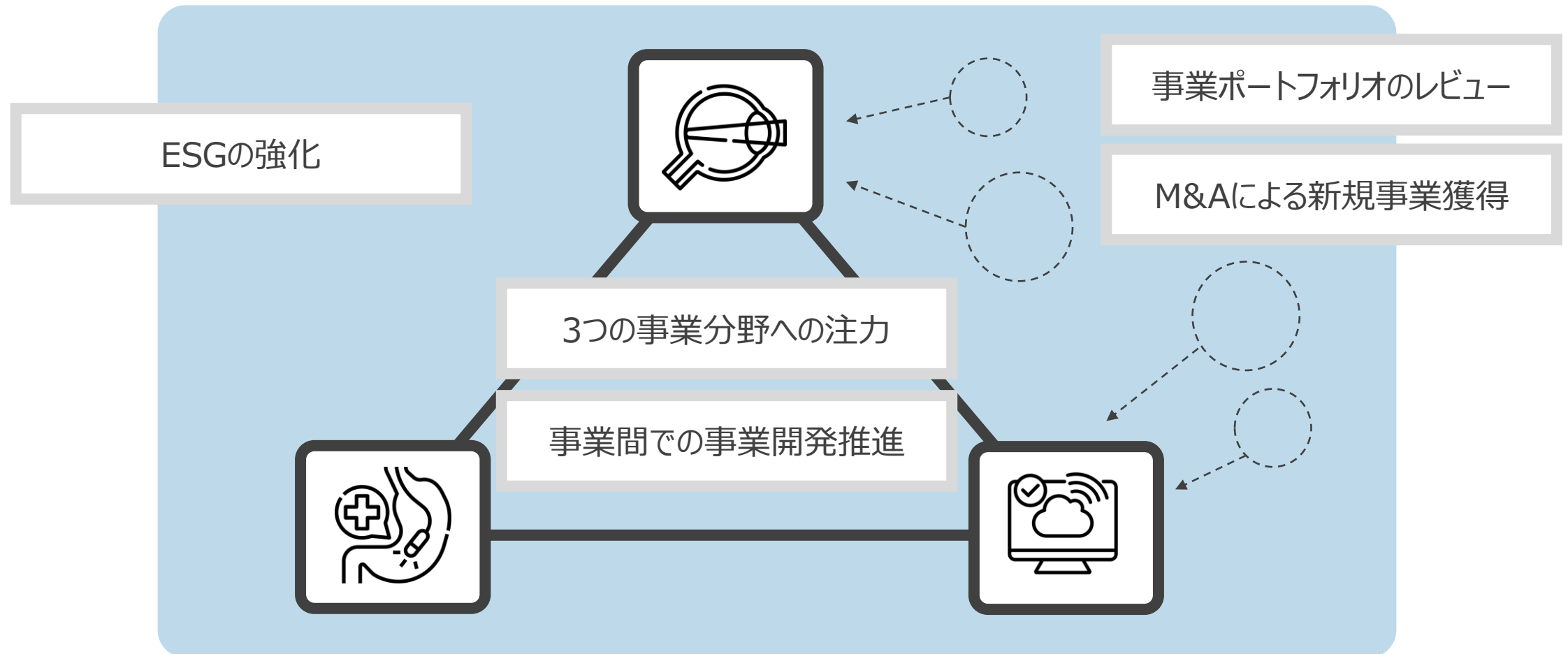
## 情報社会をサポート

- 半導体用マスク&ブランク
- データセンター用HDD基板
- ディスプレイ用フォトマスク
- 車載カメラ等のレンズ



# 1年前、経営課題として掲げたこと

当社は1年前、下記の点を重要な経営課題として掲げ、さまざまな取り組みをおこなってきた。



# 経営課題に対する取り組み進捗

## 主な経営課題

## 進捗と成果

3つの事業分野への注力

- 3つの事業分野での技術開発を促進する社内カンパニーを設置
- 単一の事業よりも広い視点での事業機会探索

事業ポートフォリオのレビュー

- グループマネージメント視点での各事業のアセスメントを実施
- HOYAの強みとの関連性が低い事業の整理を小さい事業から開始

M&Aによる新規事業獲得

- 既に体制のあるライフケアに加え、IT関連のM&A推進体制整備を進める
- M&A候補企業のリストアップと分析、ショートリスト作成を進める

事業間での事業開発

- 映像やブランクスの技術を組み合わせたXR関連製品の取り扱いを開始
- 今後もカンパニー内での技術開発コラボレーションを複数立ち上げ

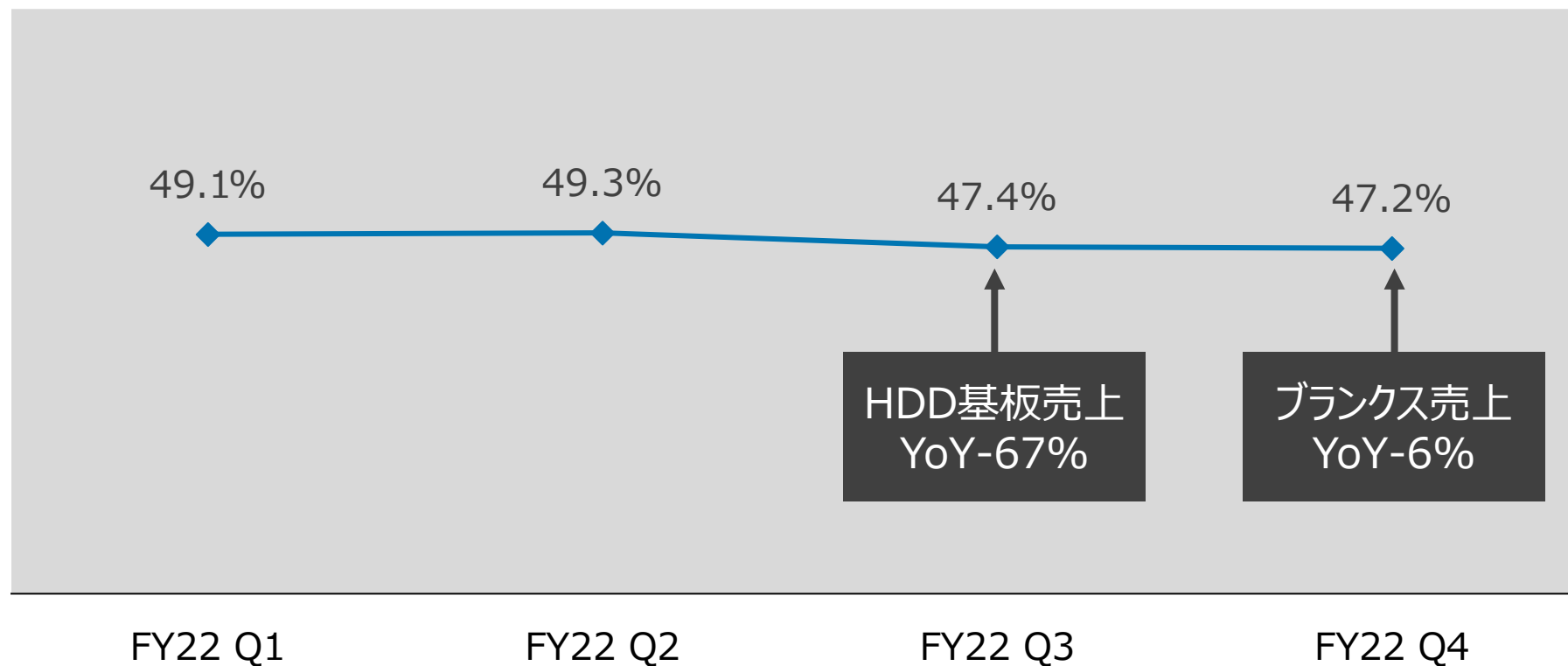
ESGの強化

- 後述

# 収益性のマネジメント

- 新しい取り組みを進めつつも、収益性重視、数字で判断する物差しは不変。
- FY22はHDD基板と半導体製造用ブランクスが調整局面にあったが、収益性への影響を最小化することができた。

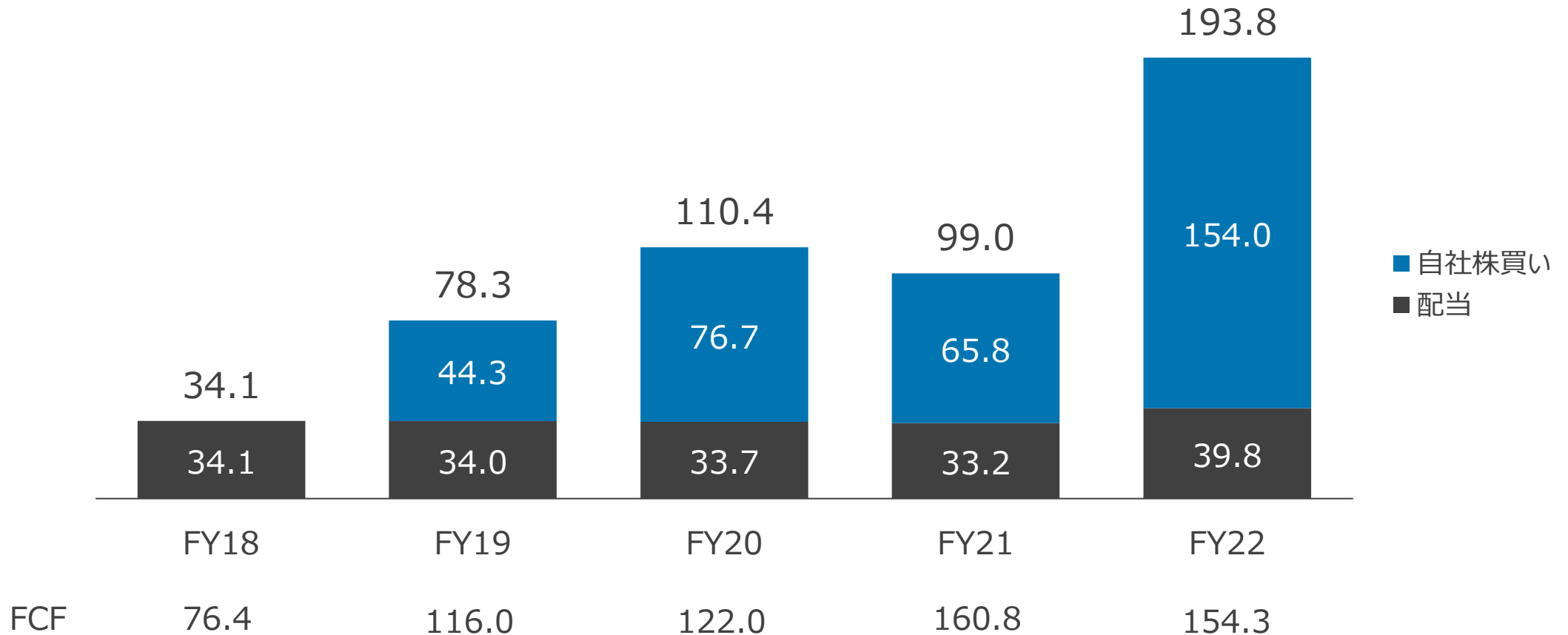
## 情報・通信事業：通常の営業活動からの利益率



# キャッシュアロケーション

- 成長投資を最優先しつつも、大型の投資案件/M&Aの短期での実行がなかったため、余剰なキャッシュを株主に還元。
- FY22の総株主還元額は1,900億円を超え、過去最高。

総株主還元額の推移 (十億円)



# FY22の振り返り：ESG強化の進捗

## 課題認識

## 進捗と成果

ESGを推進する体制

- 各事業部にESG担当を配置
- 執行役、事業部長の評価にESG指標を組み入れ
- 取締役会での定期報告

人的資本/従業員エンゲージメント強化

- 継続的なエンゲージメントサーベイ実施
- グローバルでの新評価制度導入
- 教育・サクセッションプランの深化

環境負荷低減の取り組み

- 環境関連データ収集のプラットフォーム刷新
- CO2排出量計測に関する第三者監査の実施
- 再エネ導入目標の設定

ESG開示の拡充

- TCFD開示を実施
- MSCI ESGレーティング A→AAAにアップ
- GPIF運用機関が選ぶ優れた統合報告書

国際的なイニシアティブ等への参画

- 国連グローバルコンパクトに署名
- RE100に加盟
- Orbis Int'lなどの社会貢献活動への参画

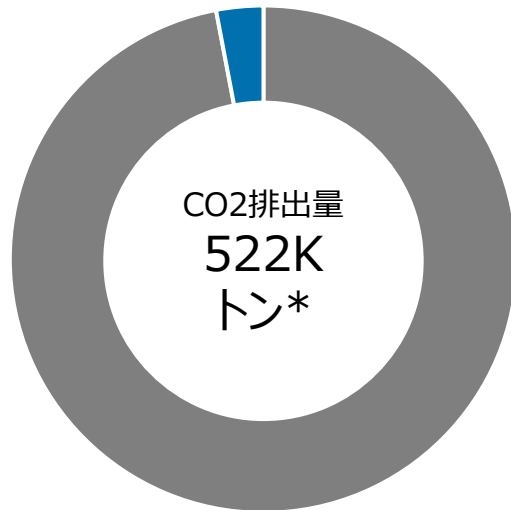


# 中長期CO2削減目標

当社グループのCO2排出量の9割以上を占める購入電力の再エネ転換により、排出量（スコープ1+2）を2040年には100%削減する

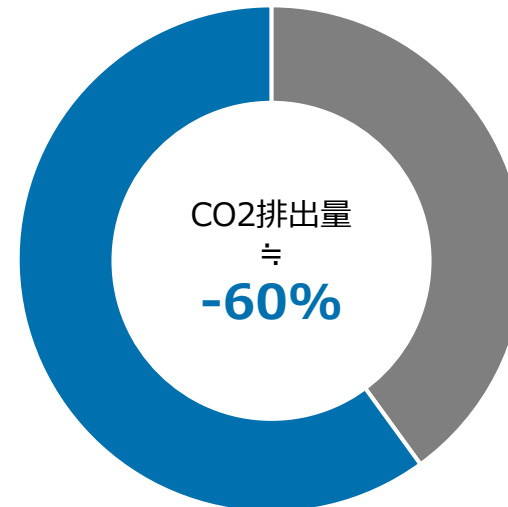
現在

再エネ比率



2030年

再エネ比率





2040年

再エネ比率



\*スコープ1+2。スコープ3についてはFY23以降、段階的な算定と開示を検討

# FY23の重点項目

- 
- ☑ 3つの領域での新たな事業機会探索の加速
  - ☑ M&A活動の強化
  - ☑ 調整フェーズにある事業の収益マネジメント
  - ☑ 再エネの段階的導入
  - ☑ 段階的なScope 3の算定と削減計画の検討
- 

# 本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2022年4月～2023年3月の会計期間を2023年3月期もしくはFY22と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。  
<https://www.hoya.com/investor/kessan/>

**Innovating For a Better Tomorrow**

**HOYA**